



## 説教要旨 「神の国の最前線」

ルカによる福音書 11 章 14～23 節

イエス様が口の利けない人から、口をきけなくする悪霊を追い出しておられた。それを周囲の人がどう受け止めたのか、がこの今日の聖書箇所が始まりです。イエス様の働き、その御業を見ていた群衆は驚嘆しました。しかしその群衆の中には陰口を叩く人もいたのです。「あの男は悪霊の頭ベルゼブルの力で悪霊を追い出している」(15 節)と。あるいはあからさまに、イエス様のことを試そうとして「天からのしるし」を求める人もいました。口がきけなかった人がものをいいたしたのを目撃しながらも、まだ足りない。もっと見せてみろと迫るのです。

神様の働きを目撃しているはずなのに、それを神様の働きだと認めることができずに、なんだかんだ難癖をつけて、自分に認めさせられない方がおかしいのだ、天からのしるしを見せてみろと言っていちゃもんつけているのが私たちの姿なのです。

そんな私たちにイエス様ははっきりと言われます。

「わたしが神の指で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ」(20) 何か仕事をしようするとき、まず指先が対象のものや道具に最初に触れ、指先からその仕事が始まります。神さまの仕事が、イエス様によって始まっているならば、神の国、神の支配はすぐそこまで来ているのです。イエス様が私たちを説得できないことが問題なのではありません。そこで私たちが手を伸ばして神さまの支配を受け入れてゆくのか、それともそれはあの口の利けない人だけに起こったことであって、自分とは関係ないことだ、と突っぱねるのか。私たちがそこでどうするかこそが問題なのです。

『神様なんて何もしてくれない』と嘯く私たちを救うために、神の独り子が私たちの手の届くところにまで来てくださり、その神の指で、私たちを救いへと招き入れようとされています。その指に、その働きに、手を伸ばし、あなたの上に働いてくださる神さまに目を向けて、すでに始まっている神の国を、神の恵みの支配を受け入れてほしい。イエス様そう語りかけてくださっているのです。



(2019・5・19 説教者：稲垣真実)